

## “誰もが客室乗務員・グランドスタッフになれる” 2019 年の採用

(来年からの就職協定廃止の影響で今年の就職戦線は混乱?)

主席研究員 光岡寿之

新年を迎えました。大学・短大・専門学校で4月から最終学年を迎える方は、いよいよ就職戦線本番です。もう待ったなしです。

2019年、今年の就職戦線は、時代の変わり目とも言えるべき大きな2つの特徴があります。一つ目は、人手不足により、更なる大量採用が見込まれ合格しやすくなること。二つ目は、経団連が「2021年入社の学生から就職協定を設定しない」と言明したことから、今年の就職戦線にも影響し、協定は有名無実化、一部の企業が“青田買い”など採用の早期化に走り、混乱の就職シーズンとなる懸念があることです。

まず、「人手不足による大量採用から合格しやすくなる」話から説明しましょう。

訪日外国人の激増や路線拡大で好況に沸く日本の航空業界は慢性的な人員不足に陥っており、大量採用を行っているものの、必要人員を確保できていません。

従って、更なる大量採用が見込まれる2019年採用では、応募資格と基本的な航空適性を満たしていれば、“誰もが客室乗務員・グランドスタッフに合格できる”絶好の年“です。

昨年2018年の航空業界全体の採用数は、

客室乗務員(以下、CA)では、JAL/ANA大手2社に外資系航空会社の日本人CA採用、国内中小の航空会社のCAを加えると、少なくとも2000名の採用がありました。

グランドスタッフ(以下、GS)も、主要5空港のGS会社の採用に地方空港のGS各社の採用数を加えると、少なくとも1500名の採用がありました。CA・GS合計3500名もの過去最高の大量採用でした。

数年前のJAL系の採用中止の時代の全国採用数、CA500名、GS300名の時代からは隔世の感があります。採用合計数は800名から3500名へと、4.4倍に増加しました。

かつては、応募資格を満たし航空適性があっても上から800位で切られ合格出来なかったのが、今では、応募資格を満たし航空適性があれば3500位まで拡大、合格可能圏入ったのです。

つまり、全国の航空業界応募者の中で、上から 3500 位までに居れば、CAないしはGSIになれるのです。

合格者プロフィールを見てみると、従来のCA500 名採用の時代の合格者は、何でもこなせるオールマイティーの学生でしたが、昨今のCA2000 名採用の時代になってからは、オールマイティーでなくても、極めて語学が出来る、極めてホスピタリティーがある、極めてサークルで頑張ったなど、一芸に秀でた学生が合格出来るようになりました。

#### (1)客室乗務員募集数（JAL/ANAの過去 5 年）

JAL・ANAは、この 5 年、毎年 2 社で 1100～1500 名規模の大量採用を行っています。

客室乗 務員 募集数	JAL				ANA				合計
	新卒	既卒	既卒 2	計	新卒	既卒	既卒 2	計	
2014 年	200	100		300	500	260	100	860	1,160 人
2015 年	330	120		450	600	440	経験者	1,040	1,490 人
2016 年	350	50		400	750	40	経験者	790	1,190 人
2017 年	400	75		475	550	50		600	1,075 人
2018 年	500	150	経験者	650	600	80	経験者	680	1,330 人

## (2) グランドスタッフ募集数

(主要 5 空港、新卒採用のみ、前の数字は 2017 年、後の数字は 2018 年)

首都圏		近畿圏		中部空港	主要 5 空港 合計
成田空港	羽田空港	関西空港	大阪空港 (伊丹)		
JALスカイ		Kスカイ	JALスカイ大阪	ドリームスカイ名 古屋	2017 年 計
230/250		50/100	40/100	30/20	1.020
ANA成田エ アポートサー ビス	ANAエア ポートサー ビス	ANA関西空港	ANA 大阪空港	ANA中部空港	2018 年 計
140/140	410/300	50/50	40/50	30/25	1.035 人

次に、2019 年が合格しやすい、もう 1 つの理由を説明しましょう。

かつて航空会社で採用を担当していた私の経験からは、良材の確保には採用数の 20 倍の応募数が必要です。ところが、昨今の採用ではこの“応募倍率 20 倍を確保できなくなっている”のが実情なのです。

CAの昨年の採用を例に見てみましょう。

推測ですが昨今のJAL/ANAのCA新卒採用の応募者数は 1 万人前後と思われます。

JALは 500 名採用ですから 20 倍の 1 万人の応募があれば十分ですが、ANAとの重複合格者が仮に半数の 250 名の辞退があるとすると、採用数  $500 + \text{重複合格者辞退数 } 250 = 750 \times 20 \text{ 倍} = 1 \text{ 万 } 5000 \text{ 名}$  となり、20 倍を確保出来きません。

ANAは 600 名採用ですから 20 倍で 1 万 2000 人、既にこの時点で 20 倍を割っています。JALとの重複合格者が仮に半数の 300 名の辞退があるとすると、 $600 + 300 = 900 \times 20 = 18000 \text{ 名}$  となり、20 倍は全く確保出来きません。

人気業界なのに、20 倍以上に応募者が増えない理由は少子化にもあります。

近年の 22 歳の日本人女性数は 60 万人、これに女子の大学進学率 48%をかけると 29 万人、これに語学力(TOEIC、GS/550 点以上、CA/600 点以上)など航空業界に必要なミニマムの要件を満たす者が仮

に半数とするとCA・GSの理論的な応募有資格者は約 15 万人となります。同じ計算を 20 歳/60 万人で、女子短大進学率 9%、専門学校進学率 16%で計算すると 8 万人となり、結果、応募有資格者は 22 歳/20 歳合計で 23 万人となります。

2018 年のCA・GS新卒採用数が約 3500 名ですから、その 20 倍は 7 万人、つまり、応募有資格者全員の 23 万人の内、3 人に 1 人が CA・GSを受験しないとかつての様な良材の採用はできないのです。他の業界も好調な現在、同世代の 3 人に 1 人が航空業界を受験することは論外です。

即ち、今後とも、航空業界の採用の競争率は 20 倍以下が続くものと思われ、合格しやすい状況が続きます。

このように、今や誰もが真剣に努力すれば CA や GS に手の届く時代になりました。が、油断は禁物です。

それは、2019 年採用の二つ目の特徴である「就職協定が守られるのか否か」の問題です。

現行、経団連の就職協定では、卒業年度直前の 3 月から説明会など広報活動開始、卒業年度の 6 月から選考試験開始、卒業年度の 10 月から正式内定となっていますが、

昨年秋、経団連は、就職協定には拘束力がないため、人手不足を背景に、近年、外資系企業や一部企業がルールを無視して、良材を求め“青田買い”を増加させたため、協定は形骸化しつつあるとして、来年度 2021 年入社の学生から就職協定を廃止すると言明しました。

今年 2019 年の就職ルールには変更はないものの、経団連の「来年から廃止」の言明の影響は大きく、航空業界採用においても、既に昨年末から一部の企業で選考時期を早期化する動きがあると聞いています。

従来は、JAL/ANAのCA採用と首都圏のGS各社の採用が先行し、一段落した後で、中小の航空会社のCA採用、地方空港GS各社の採用が追いかけて行われ、各社とも必要数の確保が可能でした。

しかしながら、昨今では、JAL/ANAのCA採用数と首都圏GS各社の採用数が巨大なため、重複合格者による大量辞退が発生し各社とも採用必要数の確保に苦労しています。

また、中小の航空会社のCA採用、地方空港のGS各社の採用も、首都圏の先行組に良材を大量に採用されてしまうため、採用必要数の確保が困難となっています。

以上の状況から、2019年の採用で予想されることは、

全ての会社が、出来るだけ早く選考を開始し短期間で内々定を出すのではないかということです。選考の時期も、ルール通り6月なのか、説明会解禁の3月なのか、もっと早いのか・・・残念ながら、全く予測が立ちません。

このような状況の中で、受験生の皆さんが留意することは、以下です。

- ① 新年明けと共に採用本番は開始されたと意識し早期に真剣に準備に入る。
- ② 本年は選考時期が各社とも早まり、同時期に重なるなど、選考時期が不透明なため、毎日、志望会社の採用ホームページをウオッチし、臨機応変に対応する。
- ③ 第一志望の会社の最終発表前に、内定した第二志望の会社から「入社承諾書」を求められる可能性が高い、両親、先生方と相談し、後悔しない決断をする。  
個人的には、航空業界に入って活躍することを優先し、先に内定の出た会社に行くのが良いと思います。
- ④ 航空業界は人手不足ですから、年度末まで中途採用も含め多数の会社・職種を粘り強く受験すれば、必ず合格出来る。
- ⑤ アジア諸国を中心に訪日外国人が激増する中、“中国語が出来ること”は、採用では大きなアドバンテージになる。

最後に、繰り返しになりますが、合格しやすい年ですが、選考時期の混乱も予想され、油断は大敵です！

そして、地道に努力すれば、いまや、CA・GSになることは、十分に手の届く現実の夢です、必ず、夢を実現しましょう！

そして次は、空港で、機内で、皆さんにお会いしましょう！

以上